

## 巡回展 昭和57年2月

昨年まで特別展示室を使った特別展、いわば館内での特別展を実施してきたが、本年は一步外に出た形での館外特別展を企画した。これは各分野での収集資料がかなり整理され、しかも各地域別の資料がまとまった事から、何んらかの方法で地域の方々に資料を見ていただき、地域から集められた資料をその地域に還元するのも博物館活動の1つの生き方ではないかと考える。

本年は考古分野で、社会教育施設の公民館との共催により、2回遺跡展を実施した。

### (1) 南原発掘遺跡展

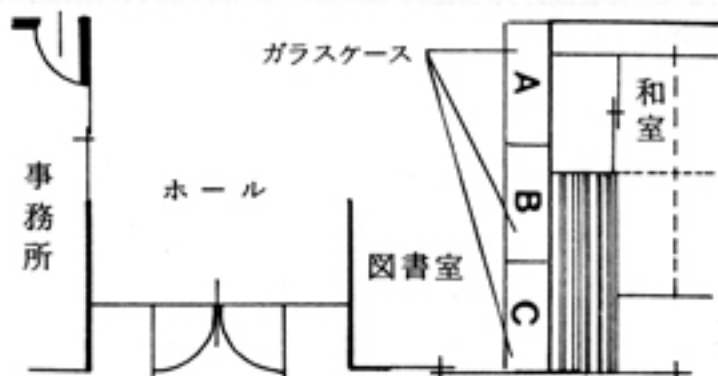
期間：昭和57年2月13・14日(2日間)

場所：南原公民館図書室

展示品：南原C遺跡出土遺物約200点

見学者数：約2,000名

南原C遺跡は昭和52年9月と53年3月の2回、南原公民館建設に先がけて行なわれた調査である。彌生時代末～平安時代にかけての集落で、特に古墳時代の大形祭壇場や祭壇遺物は特記すべきもので、その成果は大変目を見張るものがある。



- A……古墳時代中・後期の祭壇遺物
- B……古墳時代中・後期の土師器坏・埴・高坏
- C……古墳時代中・後期の土師器甕、須恵器坏



### (2) 中原上宿発掘遺跡展

期間：昭和57年2月13・14日(2日間)

場所：中原公民館会議室

展示品：中原上宿遺跡出土遺物約250点

見学者数：約1,500名

中原上宿遺跡は昭和53年8月～54年6月にかけて、平塚海岸・伊勢原線新設工事に伴う調査である。彌生時代～平安時代にかけての集落で、特に彌生時代の堅穴住居址、奈良時代初頭の堅穴住居、平安時代の井戸址や緑釉陶器・灰釉陶器、「井」文字の焼印、墨書土器などは大変注目すべき資料である。東日本を代表する沖積低地遺跡である。



A・B……彌生時代の壺・甕・高坏、奈良・平安時代の坏・甕

- C……奈良時代の土師器坏・甕、須恵器壺
- D……鉄製品(焼印・刀子・鏃・釘他)
- E……須恵器、墨書土器、古銭
- F……緑釉陶器・灰釉陶器

